

対策型胃がん検診に係る内視鏡検査導入の推進について

R7.11.20

長野県健康福祉部 疾病・感染症対策課

現状

対策型胃がん検診に係る内視鏡検査導入の推進について

- ◆ 厚労省の指針改正により、平成28年4月から市町村の対策型胃がん検診に内視鏡検査が追加され、県内では令和6年度までに以下の地区で導入されている。

須高地区(H28)、長野市(H30)、中高地区(R2)、上伊那地区(R4)、千曲市及び坂城町 (R6)

- ◆ 上記の市町村ではUSBメモリを用いたシステムを採用して2重読影を実施。デメリットは以下のとおり。

- (1) 画像の保存ができない。
- (2) データの一括管理やネットワーク化が不可能。



県医師会より、長野県でも全県で胃がん内視鏡検診の導入と、システム化の可能性について検討して欲しいと依頼があった。

課題への取組経過①

対策型胃がん検診に係る内視鏡検査導入の推進について

◆ 令和5年度の取組

県 → 市町村

◆ 胃内視鏡検診の実施状況について、アンケートを実施

回答	市町村数
実施	28
未実施	48
回答なし	1

◆ 実施済みの市町村においても、以下のような回答が多くあった。

- ・胃内視鏡を受け入れてもらえる医療機関が少ない。
- ・読影やダブルチェック体制を整備することが難しい。

課題への取組経過②-1

対策型胃がん検診に係る内視鏡検査導入の推進について

◆ 令和6年度の取組

県 → 他県

◆ 他県の取組状況を電話で聞き取り。

(1) 徳島県

- ・広域化（胃内視鏡検査の市町村間相互乗り入れ制度）を行っている。
- ・CD等を用いて、別の医療機関へ画像データを送付し2重読影を実施。
- ・クラウドシステムを令和7年度から導入予定。46医療機関中4医療機関が導入予定。
- ・クラウドシステムの運営費は参加医療機関が負担。

(2) 奈良県

- ・広域化は行っていない。
- ・2次読影を他の医療機関で実施できるよう支援する体制をとっている。
- ・2次読影については、CDやDVDを用いて、別の医療機関へ画像データを送付している。

課題への取組経過②-2

対策型胃がん検診に係る内視鏡検査導入の推進について

県 → 業者

クラウドシステムの業者に聞き取り。ポイントは以下のとおり。

- システム管理者（医師会が担う場合が多い）が、全体の運用管理（2次読影医療機関へ振り分け作業等）や集計、請求を担う。

県 → 市町村

- ◆ 対策型胃がん検診の内視鏡検査の相互乗り入れ制度に関するアンケートを実施。

意向	回答市町村数	備考
参加を希望する	37	想定受診者数：2,637名
参加を希望しない	38	
未定	1	
未回答	1	

課題への取組経過③

対策型胃がん検診に係る内視鏡検査導入の推進について

◆ 令和7年度の取組

県 → 県医師会事務局

◆ 県医師会事務局との検討

→ 早ければ令和9年度から開始できるように進める方向

県 → 長野県健康づくり事業団

◆ 現行の読影システムや読影システム利用による費用の支払い等について 聞き取り。

今後の対応

対策型胃がん検診に係る内視鏡検査導入の推進について

- ◆ 先行して実施している自治体に全体の流れをヒアリングする。
- ◆ ヒアリングした結果をもとに、胃内視鏡検診運営委員会事務局の役割を整理する。
- ◆ 整理した結果をもとに、県医師会事務局と検討を進める。
- ◆ 市町村担当者会議で方向性の説明をする。

予定時期	予定内容
R8.1	R7第2回消化器検診委員会 整理事項、検討結果の報告
R8.2	市町村担当者会議 赤松先生から市町村に説明
R8.6	R8第1回消化器検診委員会 郡市医師会に検討結果と今後の予定を報告
R8.12	参加機関の取りまとめ
R9.2	R8第2回消化器検診委員会 参加機関の状況報告
R9.4	胃内視鏡検診の相互乗り入れ制度始動